

令和6年度巖木小中学校校内研究

I 研究主題

「主体的、協働的に学ぶ児童・生徒の育成」
～ 9年間の系統性を意識した授業づくりと生活づくり ～

II 研究主題設定の趣旨

本年度から、旧巖木小学校と旧簗木小学校が統合し、新たに巖木小学校と巖木中学校が校舎の併設校としてスタートをすることになった。これまで3校は、巖木町園小中連携に関する基本方針を基に、年3回の全体会議や合同研修、公開授業、合同清掃といった小中連携の取組を進めてきた。しかしながら、校内研究に関しては、各学校の実状や課題に即した研究主題や目標を基に、独自の取組を進めてきたといえる。旧巖木小では、昨年度まで「自ら伝え合う児童の育成」を目標として、特に外国語教育を中心に研究と取組を進めてきた。また、旧簗木小では、「各教科を貫く汎用的な能力の育成」を目標として、主に国語と算数の教育を中心に研究と取組を進めてきた。そして、巖木中では、「主体的・協働的に学ぶ生徒の育成」を目標として、各教科における課題解決に必要な力（課題解決にするために必要となる知識・技能及び思考力・判断力・表現力）の向上を目指した授業改善を大きな柱として、研究と取組を進めてきた。

本年度から3校が併設校となったことにより、小中間の結びつきが一層強まり、児童・生徒に対する互いの情報の共有、普段の学校生活から学校行事に関わることなど、今後はこれまで以上に様々な場面で小中が連携した取組ができるものと期待できる。学習面に関しては、各学校において昨年まで進めてきた研究に違いはあるものの、それぞれの研究を踏襲しながら、授業改善や家庭学習の推進など、学力向上を目指した小中連携した取組をさらに進めていきたいと考える。生活面においても、登下校や挨拶などの普段の学校生活、各学校行事や児童会活動、生徒会活動等、様々な場面で小中が協力し連携を取っていくことで、大きな教育効果が得られるように研究と取組を進めたい。

ただ、2つの旧小学校と中学校が、最初から全ての教育活動で連携していくことは難しく、互いの教育活動や方針等について理解を深め少しずつ歩みよりながら、連携した取組を実践していくことが大切である。小中ができるだけ協力しながら、9年間の教育活動を一層充実させ、より教育効果のある取組を進めていくことによって、児童・生徒が自ら考えて学び、また、他と共に協力して学びあいながら互いに高めあおうとする態度を育てていきたい。

このように小学校と中学校が、学習面と生活面において連携協力しあい、9年間児童・生徒の発達段階に応じた指導や教育活動を実践していくことで、主体的・協働的に学ぶ児童・生徒の育成を目指したいと考え、本主題を設定することとした。

III 研究の柱

9年間を見通した授業づくりと生活づくりのあり方